

公務災害防止事業の推進

S-KYT研修を実施して

新城市消防本部

1 はじめに

新城市は、新城市、鳳来町及び作手村の1市1町1村の合併によって平成17年10月1日をもって新たに新城市として誕生しました。

愛知県の東部、東三河の中央に位置し、東は静岡県に接しており、東西約29.5km、南北約27.3kmで、県内2番目の広さとなる499km²に、約52,000人の方が暮らしています。市の区域の84%は、三河山間部を形成する豊かな緑におおわれ、東三河一帯の水源の役割を果たしています。

また、桜・紅葉が美しく、「三河の嵐山」とも呼ばれる桜淵公園や、霊鳥仏法僧（コノハヅク）のすむ山として全国的に知られ、国の名勝に指定されている標高695mの霊峰鳳来寺山など、市域に広がる国定公園・県立公園の指定区域には、特徴ある地形や豊かな植生、美しい景観が点在して訪れる人を魅了しています。

中でも、長篠・設楽原の戦いで知られるこの地では、5月の長篠合戦のほり祭りや7月の設楽原決戦場祭りなどでは、火縄銃実演の演武もあり、必ずや来場者を魅了してくれるものと思います。

2 新城市消防団の沿革

新城市消防団、鳳来町消防団及び作手村消防

団は、平成17年10月、新城市新城消防団、新城市鳳来消防団、新城市作手消防団の多団制として、3本団、3ラッパ隊、15分団、63班、団員定数1,138名による新城市消防団が発足しました。平成20年4月には1団制となり、6方面隊、16分団、48班、団員定数980名、実員数949名として新たにスタートしました。

平成21年4月現在、新城市消防団は平均年齢31.4歳と若い団員が多く、地域の安心安全のため、消防団活動に積極的に参加し、日々努力を重ねております。消防操法にも熱心に取り組んでおり、平成19年には愛知県消防操法大会、小型ポンプ操法の部において、見事優勝しました。これも、日頃の訓練の賜物かと思えます。



車止めヨシ！



赤色回転灯ヨシ！

3 S-KYT研修を実施した経緯

新城市消防団では毎年4月当初に新入団員、班長等に研修会（訓練会）を実施し、消防職員、消防団幹部により安全管理の徹底を図ってきました。しかしながら、公務災害の発生件数は減少せず、横ばいのまま推移してきております。特に操法訓練においての怪我は毎年発生し、件数の半数以上を占める状況が続いて今日に至っております。

常日頃から団幹部、事務局は会議等において常に事故防止に努めるよう指導してきましたが、発生件数を抑えることは非常に困難なことです。

そこで、次年度の班長以上の幹部が決まり、あわせて操法訓練が始まる2月中旬に、安全意識を高めることを目的として安全管理に関する研修を実施することになりました。安全管理だけの研修は初めての試みであり、団員は休日を返上しての研修であるため、公務災害防止に関する専門家を招いて、内容の充実した研修を開催したいと考えておりました。ちょうど、その時、広報消防基金を拝見したところ、消防基金と共催で行っている消防団員公務災害防止研修

を知り、早速、申し込んだところ、決定されたため、消防団危険予知訓練（S-KYT）研修を実施することとなりました。

4 研修の効果

研修は講師3名の派遣により次年度の班長以上の団幹部75名が参加しました。カリキュラムは講義から始まり、DVD上映、実技及びチームによる結果発表の半日の研修となりました。

研修は、班ごとに分かれての実技を行い、起立し椅子をしまい込むときは「椅子押し込み、ヨシ！」と指差し呼称をするよう講師からの指導があり、当初は団員同士の面識がほとんどないこともあり、恥ずかしそうに小さな声で実践していました。その後、班ごとの指差し唱和、健康KY、タッチアンドコール、イラストを用いたのシミュレーション訓練や班ごとの発表などを実施していくうちに自然と団員同士のコミュニケーションが深まり、またチームワークが向上し、実技が終了する頃には全団員が自発的に「椅子押し込み、ヨシ！」と大きな声で発声するようになっていました。

研修終了後のアンケートでは、「実技が多か



課題に取り組む消防団員

ったため、時間があっという間に過ぎた。」、
「来年度班を預かる立場として、どのように公
務災害をゼロにするか、班長としての責務を再
確認した。」、「操法訓練の開始前に一人ずつ健
康状態を確認することは今までなかった。もう
すぐ訓練が始まるので、まずは講師が言われた
ことを取り入れてみたい。」など多くの感想が
みられ、公務災害に対する安全意識の高揚につ
ながる大変有意義な研修内容でした。

5 月に一回実施しているS-KYTについて

研修終了の数日後、消防団幹部による会議が
行われ、その中で団長からS-KYT研修で学んだ
ことを各班で実施するよう指示がありました。

当市では、毎月19日を防火広報の日として各
班で実施していますが、その時にS-KYTも合わ
せて実施し、訓練内容を記載したものを団長へ
報告するという取り組みを行っています。

研修終了後に各班長は班員へ研修内容をフィ
ードバックしており、最初の訓練ではそれを実
践しました。防火広報開始前には「〇〇分団第
〇〇班ゼロ災でいこう、ヨシ！」のタッチ・ア
ンド・コールから始まり、危険予知訓練（KY）、
各々の作業における指差し呼称を実践しまし
た。まだまだ声は小さいのですが、毎月訓練を

実施することにより、班の連帯感や安全意識の
向上、さらには公務災害件数ゼロにつながって
いくと考えられます。

現在、各分団は操法訓練に取り組んでいると
ころですが、研修以降は公務災害が発生してお
りません。これは、確実にS-KYT研修、及び月
に一度のS-KYTの成果が表れているものと考え
られます。

消防団員は、地域住民の安心・安全のために
任務を遂行する責務がありますが、事故が起き
た場合の家庭や仕事場、または本人の苦痛は計
り知れません。「新城市消防団 ゼロ災」を目
指し、今後も安全管理の徹底を図っていきたく
と考えております。



指差し唱和